

外為ウィークリービュー I 北米編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/04/25

手掛かり材料豊富な週に

通貨ペア	基調		ページ数
ドル/円	➡	FOMC声明と議長会見を睨んで 予想レンジ: 81.70 ~ 83.50 円	2-4
カナダ/円	➡	ドル/円の動向に注目 予想レンジ: 84.00~ 88.20 円	5-6
経済指標 カレンダー	一週間の予定を一覧で表示		7-8

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

USD/JPY

ドル/円 4/18~22の主な推移

※4時間足



4/18 Monday	前週末のNYダウの下落などを背景に日経平均株価が下落すると、クロス円(ユーロ/円など)が値を下げ、ドル/円も連れ安となった。夕方、ギリシャが債務再編を要請していたとする報道を受けてユーロ/円が急落すると、ドル/円も82.64円まで一時値を下げたが、これをギリシャ財務省筋が否定すると、ユーロ/円が反発し、ドル/円も82.95円まで値を戻す、という動きが見られた。ただ、NY市場序盤に格付け会社S&Pが米国の長期格付け見通しを従来の「安定的」から「ネガティブ」に引き下げるとの発表すると、米国債利回りが大幅に低下。これを受けてドル/円は82.18円まで大きく値を下げた(①)。
4/19 Tuesday	前日のNYダウ平均が下落したことを受け、「この日の日経平均も下落するのでは」との思惑が広がり、クロス円が早朝から下落。これにドル/円は連れ安となり、82.30円まで値を下げた。しかし、下げ一服後は仲値公示に向けたドル需要への思惑もあってドル/円は反発。その後は82.30円台から82.60円台のレンジでのみみ合いとなったが、21時30分に発表された米3月住宅着工件数が54.9万件(予想: 52.0万件)、米3月建設許可件数は59.4万件(同: 54.0万件)と双方予想を大きく上回ったことを好感し、ドル/円は82.76円まで上昇した(②)。ただ、欧州重債務国の先行き不安が意識され続ける中で米国債利回りが低下すると、ドル/円は上げ幅を縮小する展開となった。
4/20 Wednesday	本邦3月貿易黒字(通関ベース)が1965億円と予想(6454億円)を大きく下回ったことを受けた円売りや、ゴトー(5・10)日に向けたドル需要への思惑を背景にドル/円は朝から上昇し、正午過ぎに83.10円の高値をつけた(③)。しかし、その後は利益確定の売りなどにより上げ幅を縮小。さらにNY市場序盤に米国債利回りが低下するとドル/円は一段安となり、82.26円まで値を下げた。
4/21 Thursday	早朝にクロス円が上昇する中で82.58円まで上昇したが、その後は国際商品価格の上昇などを背景に対欧州通貨でのドル売りが強まると、ドル/円でもドル売りが優勢となった。節目の82.00円を割り込むと下げが加速した上、21時30分に発表された米新規失業保険申請件数が40.3万件(予想: 39.0万件)、23時に発表された米4月フィラデルフィア連銀景況指数が18.5(同: 36.9)と、双方予想よりも弱い結果になったことを受け、81.60円の安値をつけた(④)。
4/22 Friday	早朝に81.97円まで上昇したものの、82.00円を目前に失速。81.67円まで下落した。しかし、手掛かり材料に乏しい中でそれ以上売り進める動きもなく、下げ幅を縮小。欧州市場序盤にはユーロ/円が上昇すると、ドル/円は連れて一時82.11円まで値を伸ばす場面も見られた(⑤)が、82円台では上値が重く、すぐに上げ幅を縮小した。その後は欧米参加者がイースター休暇のために少ない中、方向感に乏しい展開となった。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

USD / JPY

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米政策金利の早期引き上げ観測
- ・米長期金利の上昇
- ・米金融緩和策の巻き戻し観測
- ・日本の財政悪化懸念
- ・日銀による追加金融緩和への期待
- ・(本邦およびG7による)円売り介入

下落要因(ドル安・円高)

- ・米超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の低下
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・米追加金融緩和観測の台頭

今週の見通し

今週のドル/円は手掛かり材料が多く、1つ1つの材料から方向感を模索する流れになると考えられる。

最も注目を集めるのは、27日に発表される米連邦公開市場委員会(FOMC)声明と、その後に行われる米連邦準備制度理事会(FRB)のバーナンキ議長の記者会見だ。米国の金融政策について、現状、市場では「量的緩和第2弾(QE2)は拡大されず、予定通り6月末で終了するが、FRBのバランスシート自体は縮小させない」との見方が大勢を占めているが、この点についてバーナンキ議長がどのような発言をするかが注目される。米国経済について慎重の見方を示し、一部で広がっている「年内利上げ観測」が後退するような流れになれば、ドルには売り圧力がかかるだろう。FOMC後にFRB議長が記者会見を行うのは歴史上初めてとなるため、どのような会見になるのか注目したい。

また、今週の米国では、25日に3月新築住宅販売件数、26日に2月S&P/ケース・シラー住宅価格指数や4月消費者信頼感指数、4月リッチモンド連銀製造業指数、27日に3月耐久財受注、28日に第1四半期国内総生産(GDP)・速報値や週次の新規失業保険申請件数、3月中古住宅販売保留、29日に4月シカゴ購買部協会景気指数など、市場での注目度が高めの経済指標が多く発表される。それぞれ、市場予想より良好な結果ならドル高、予想より悪い結果ならばドル安で反応しよう。さらに今週は米国債入札(26~28日)も予定されており、入札動向を受けた米国債利回りの動向に連れてドル/円が動く可能性もあり、注視したい。

この他、ユーロの動向が波乱要因となってくることも考えられる。ギリシャのデフォルト(債務再編)についての思惑が広がる中、26日18時に発表予定のユーロ圏対GDP比財政赤字によってギリシャを含む欧州重債務国の先行き不安が強まり、ユーロがドルや円に対して大きく動けば、ドル/円も上下に大きく値が動く可能性がある。(ジェルベズ)

(予想レンジ:81.70~83.50円)

USD/JPY

テクニカル分析

●ドル/円 4/22週足引値:81.95円(移動平均、ボリンジャーバンドから見た相場展開)

先週は、高値83.26円～安値81.60円と1円66銭の値幅の一週間となった。

先週は83円台前半で取引が始まったが、上伸力は鈍く、戻り高値から着実にドル売りが出て下落する、という展開の繰り返しの1週間となった。週末の引値81.95円は、20日線(83.40円、4/22)、200日線(83.27、4/22)、60日線(82.47円、4/22)、40日線(82.43円、4/22)をすべて下回っている。日足チャート上部のボリンジャーバンド(4/22時点)は上限が85.57円、下限が81.22円であり、バンドの上限は下落、下限は上昇、とバンド幅は縮小している。

週足チャート(図1):先週は先週に続き大きな陰線となった。4/04週で一旦は、2007年7月の123.63円からの上値抵抗線(当時:85.64円)に近づき、反転下落した格好だ。この線は今週85.05円にある。

日足チャート(図2):先週に82.00円のビッグポイントを下にブレークし、「反転上昇を目指す相場」から「下落がどこまで継続するか」を考える相場に転換したと見る。4/06高値85.53円からの下落過程で「押し目と思ったところを買ってもみ合いを経て、その後下落が再開」を4回程度繰り返しており、その過程で市場で醸成されたドルロングが残存している。しかもこれだけドル/円が下落している割にドルショートがあまりない状態というのが不気味である。80.60-70円のビッグポイントを試す展開もあるのではと見ている。80.00～82.70円(岡田)



巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

カナダ/円 4/18~22の主な推移



4/18 Monday	ギリシャ紙の報道を受けて同国の債務再編への懸念が高まった事や、格付け会社S&Pによる米国債の格付け見直し引き下げを嫌気して、NYダウ平均株価が250ドル近く下落すると、リスク回避の動きが強まり、カナダ/円は84.58円の安値を付けた。(①)しかしその後、NYダウ平均株価が値ごろ感から買い戻され、引けにかけて140ドル安まで下げ幅を縮めると、カナダ/円も急速に買い戻された。
4/19 Tuesday	加3月消費者物価指数が前年比で+3.3%と予想(+2.8%)以上の高い伸びを示した事を受けて、カナダ中銀(BOC)による利上げ再開時期が早まるとの思惑からカナダドル買いが強まり、カナダ/円は86.58円まで上昇した。(②)
4/20 Wednesday	早朝に発表された米インテルの好決算を受けて日経平均株価をはじめアジア株が軒並み上昇。この流れを引き継いで欧州株も上昇して始まり、さらに原油や金などの国際商品価格も上昇した事を受けてカナダ/円は87.14円の高値を付けた。(③)
4/21 Thursday	米新規失業保険申請件数が40.3万件と予想(39.0万件)を上回り、その後発表された米4月フィラデルフィア連銀景況指数は18.5と予想(36.9)を下回った。弱い経済指標が続いた事を受けてドル/円が81.60円まで下落すると、これにつれてカナダ/円も85.69円まで下落した。(④)

上昇要因(カナダドル高・円安)

- ・世界経済回復期待の高まり
→リスクを取ることに積極性が増す
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・日銀の追加金融緩和への期待
- ・(本邦及びG7協調による)円売り介入

下落要因(カナダドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
- 日米(主要国)株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・カナダ中銀の追加利上げ観測の後退
- ・中国など新興国の引き締め観測

巻末の特記事項を必ずお読みください。

CAD/JPY

今週の見通し

先週のカナダ/円相場は84.58円～87.14円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約1.0%の下落(カナダドル安・円高)となった。世界的な株価の上昇や国際商品価格の上昇を背景に、同じ資源国通貨である豪ドルは堅調に推移したものの、カナダドルは円に対して小幅安となった。やはり、カナダは地理的・経済的に米国に近いので、ドル/円相場下落の影響をより強く受けたようだ。その米国では、今週26-27日に開催される米連邦公開市場委員会(FOMC)が最大の注目点となる。量的緩和第2弾(QE2)は予定通り6月末まで実施されると見られており、FOMC後の記者会見でバーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長が、QE2終了後の金融政策についてどういった発言をするのかが焦点となろう。FRBが金融緩和姿勢を維持するようだと、ドル/円が下落して、カナダ/円の下落につながる可能性もある。ただ、米国金融緩和の継続は、株価や国際商品価格の上昇につながりやすく、カナダ/円の大幅下落も考えにくい。(神田)

(予想レンジ:84.00～88.20円)

テクニカル分析



●カナダ/円 4/22週足引値:85.80円(日足、移動平均、ボリンジャーバンドから見る相場展開)

カナダ/円は68.35円(2009/4/22安値)から94.45円(2010/04/26高値)へと26.10円上昇したが、その後は安値78.40円(2010/08/24)⇒高値85.58円(3/10)⇒安値77.60円(3/17)⇒高値89.49円(4/08)となっている。取引値は60日線(84.50円、4/22)や200日線(82.75円、4/22)よりも上値に位置しているが、20日線(86.64円、4/22)とは交錯している。ボリンジャーバンドは4/22現在、上限89.43～下限83.86円であり、バンド幅は縮小傾向である。

4/08に直近高値の89.49円を見てから調整的な下落となっている。先週は4/18に安値84.58円を見て後、反転上昇となっているが、反発が鈍い。目先は83～88円のレンジが先行するのであろうか。

上値ポイントは①89.49円(4/08高値)、②90.27円(2009/08高値)であり、下値ポイントは①84.50円(60日線、4/22段階)、②82.75円(200日線、4/22段階)である。(岡田)

経済指標カレンダー (4/25~28)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
4/25 (月)			ウェリントン、シドニー、香港、フランクフルト、パリ、チューリッヒ、ロンドン(イースターマンデー)、南ア休場(家族の日)		
	23:00	○	(米) 3月新築住宅販売件数	25.0万件	28.0万件
			(米) 3月新築住宅販売件数 [前月比]	-16.9%	12.0%
4/26 (火)			シドニー休場(アンザック・デー)		
	22:00	○	(米) 2月S&P/ケース・シラー住宅価格指数 [前年比]	-3.06%	-3.29%
	23:00	○	(米) 4月消費者信頼感指数	63.4	64.5
	23:00	○	(米) 4月リッチモンド連銀製造業指数	20	20
	26:00	○	(米) 2年債入札(350億ドル)	—	—
4/27 (水)			南ア休場(自由の日)		
	10:30		(豪) 第1四半消費者物価 [前期比]	+0.4%	+1.2%
			(豪) 第1四半消費者物価 [前年比]	+2.7%	+3.0%
	15:00		(独) 5月GFK消費者信頼感調査	5.9	5.8
	17:30		(英) 第1四半期GDP・速報値 [前期比]	-0.5%	+0.5%
			(英) 第1四半期GDP・速報値 [前年比]	+1.5%	+1.8%
	21:30	○	(米) 3月耐久財受注 [前月比]	-0.9%	+2.0%
		○	(米) 3月耐久財受注 [前月比: 除輸送用機器]	-0.6%	+1.6%
	25:30	◎	(米) FOMC政策金利発表	0.00-0.25%	0.00-0.25%
	26:00	○	(米) 5年債入札(350億ドル)	—	—
	27:15	◎	(米) バーナンキFRB議長会見	—	—
	未定		(独) 4月消費者物価指数・速報 [前月比]	+0.5%	+0.2%
			(独) 4月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.1%	+2.4%
4/28 (木)	—	◎	日銀金融政策決定会合	0.00-0.10%	0.00-0.10%
	06:00	◎	(NZ) RBNZオフィシャル・キャッシュレートの	2.50%	2.50%
	08:01		(英) 4月GFK消費者信頼感調査	-28	-27
	08:30	○	(日) 3月全国消費者物価指数 [前年比]	±0.0%	±0.0%
		○	(日) 3月全国消費者物価指数 [前年比: 除生鮮]	-0.3%	-0.2%
	08:30		(日) 3月失業率	4.6%	4.8%
	08:50		(日) 3月鉱工業生産・速報 [前月比]	+1.8%	-11.1%
			(日) 3月鉱工業生産・速報 [前年比]	+2.9%	-8.5%
	16:55		(独) 4月失業者数	-5.5万人	-4.0万人
			(独) 4月失業率	7.1%	7.0%
	18:30		(南ア) 3月生産者物価指数 [前年比]	+6.7%	+7.3%
	21:30	◎	(米) 第1四半期GDP・速報値 [前期比年率]	+3.1%	+1.8%
	21:30	◎	(米) 4/23までの週の新規失業保険申請件数	40.3万件	—
	21:30	○	(米) 第1四半期個人消費・速報値 [前期比]	+4.0%	+2.0%
	23:00	○	(米) 3月中古住宅販売保留 [前月比]	+2.1%	+1.5%
	26:00	○	(米) 7年債入札(290億ドル)	—	—

経済指標カレンダー (4/29)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
4/29	—		東京休場(昭和の日)		
(金)	07:45	○	(NZ) 3月貿易収支	+1.94億NZD	+2.00億NZD
	15:00		(独) 3月小売売上高指数 [前月比]	-0.3%	+0.1%
			(独) 3月小売売上高指数 [前年比]	+1.1%	+1.2%
	17:00		(ユーロ圏) 3月マネーサプライM3・季調済 [前年比]	+2.0%	+2.2%
	18:00	◎	(ユーロ圏) 4月消費者物価指数・速報 [前年比]	+2.7%	+2.7%
	18:00		(ユーロ圏) 4月消費者信頼感・確報	-11.4	-11.4
	18:00	○	(ユーロ圏) 3月失業率	9.9%	9.9%
	21:30	○	(加) 2月GDP [前月比]	+0.5%	±0.0%
	21:30	○	(米) 3月PCEデフレーター [前年比]	+1.6%	+1.9%
	21:30	○	(米) 3月PCEコア・デフレーター [前月比]	+0.2%	+0.1%
		○	(米) 3月PCEコア・デフレーター [前年比]	+0.9%	+0.9%
	21:30		(米) 3月個人所得 [前月比]	+0.3%	+0.3%
	21:30	○	(米) 3月個人支出 [前月比]	+0.7%	+0.5%
	22:45	◎	(米) 4月シカゴ購買部協会景気指数	70.6	68.5
	22:55	○	(米) 4月ミシガン大消費者信頼感指数・確報値	69.6	70.0

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com